

ごあいさつ

ネットワークを活かした男女共同参画の推進



阿部 宏 慈

山形大学理事・副学長
男女共同参画推進室長
ダイバーシティ連携推進会議議長

山形大学男女共同参画推進室の事業に対してご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。ここに、平成30年度山形大学男女共同参画報告書をお届けいたします。今回の報告書では、7月に実施した「男女共同参画に係るアンケート」の結果報告を掲載しています。また、文部科学省科学技術人材育成費補助事業である「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の活動報告も合わせて行っております。

山形大学は、平成21年に男女共同参画推進室を設置し、平成22年に策定した「山形大学男女共同参画基本計画」により、男女共同参画推進委員会を中心に男女共同参画を推進してきました。この間、文部科学省「女性研究者支援モデル育成事業」（平成21～23年度）や「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業」（平成27～32年度）の採択を経て、充実を図ってきたところです。今年も、小白川キャンパス内に山形銀行と連携した企業主導型保育所「つぼみ」を開所することができ、仕事と子育ての両立支援の面で前進がありました。今年度は「山形大学男女共同参画基本計画」の計画期間も残すところ2年となり、本学の男女共同参画の現状を把握し、これまでの成果や今後の課題を明らかにするためのアンケート調査を実施しました。その結果は、「第2次山形大学男女共同参画基本計画（平成32年度）」の立案等、本学の男女共同参画推進のために活用していきます。アンケート結果報告をご覧いただき、忌憚のない意見をお寄せいただければありがたいと思います。

さて、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」は4年目を終えました。昨年度の中間評価において、女性研究者が働きやすい環境や制度の整備、女性研究者割合と上位職割合の増加、研究業績数の増加など、目標を達成していることが認められました。そして、今年度から自主財源による運営になりましたが、3機関の密接な連携を継続して事業に取組み、学内・学外への波及の面で飛躍的な発展がありました。本事業の特色であるサービスデザインの特別講義の開催、次世代育成のための女性大学院生ネットワークの設立、山形大学COIと連携したシンポジウムの開催などが実現しました。何より特筆すべきことは、4月に、「大学コンソーシアムやまがた」に「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」が設立されたことです。7月の男女共同参画セミナーは県内ネットワークのキックオフ・セミナーと位置付けて開催し、記念すべきセミナーになりました。その後、アカデミックイングリッシュセミナーや女性研究者発表会などの本事業のイベントを公開し、交流の輪を広げることができました。

さらに、11月にJSTの新事業である「全国ネットワーク中核機関（群）」がスタートし、「全国ダイバーシティネットワーク組織東北ブロック会議」が設置されました。ネットワークを南東北に拡大することを目標にしていたので、本学はこの動きを追い風と考え、幹事大学をお引き受けしました。そして、南東北のネットワークづくりに向けて新たな一歩を踏み出しました。

外部評価委員の方から、「事業も4年目を迎えると当事者のみの活動に陥りがちなところで、ネットワークを拡大する段階にギアアップしてきている」との評価を賜りました。来年度は、「第2次山形大学男女共同参画基本計画」の検討をとおして、本学の男女共同参画を着実に推進するとともに、東北のネットワークの推進役としての期待に応えていく必要があると考えています。関係各方面の皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。